兵庫県立篠山鳳鳴高等学校71回生　学年通信

# 「一以貫之」

2019. 2.27　　第47号(最終号)

＊儒家の祖、孔子の言葉です。一とは「忠恕」「仁」です。

## 卒業おめでとう

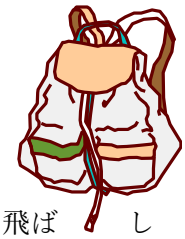
【学年主任　亀田まゆみ】

これまでの学校生活では、成績や偏差値という一つの物差しで他人と比較されることが多く、自分自身の価値をその基準でしか見られなくなって苦しんでいる人たちもいるかもしれません。しかし、これだけは言っておきたいのです。人生は他人との競争ではありません。

周りの人との競争がすべてになってしまうと、例えばスポーツの才能に恵まれた人の場合、夢に見たオリンピックに出場できたとしても、さらにはメダル獲得が期待され、勝つためには手段を選ばない状況におかれることもあり、薬物使用や暴力が生まれてしまうこともあります。競争に勝つことだけを追い求めると、ほとんどの人が敗北者となりその犠牲者になってしまいます。（皆さんの親世代である私自身の高校生時代は「受験地獄」「受験戦争」という言葉が流行った時代で、同級生が受験に絶望し命を絶つ悲劇も起こりました。）

人間は同じ規格で大量生産された物ではなく、一人ひとりに違う良さがありそれを生かして、全体として調和ある社会を造っていくようにされているのに、同じ物差しで測ろうとするところに無理があります。**これから先の人生においては、他人との比較を目的とするような一つの物差しは役に立ちません。**本来、人間は、他人の足りない所を補い合い、互いを生かし合い、悲しみや苦労を互いに癒やし、喜びや感謝を分かち合って生きるために生まれてきたのだと思います。**将来何をしていきたいかはっきり決まっていなくても、自分の夢が見えなくても良い**と私は思っています。皆さん一人ひとりに、良い味（生まれつきの良さ）があります。他人の目を意識しすぎて、自分の良さを潰(つぶ)さないで下さい。自分が何に必要とされているのか、周りをよく見て、謙虚になって、自分に出来る人助けを喜んでしていくことができれば立派な社会人だと思います。そして、自分がどんどん役立てる場所が、その人の天職なのだと思います。皆さんが見せてくれた笑顔やユーモア、ひたむきに頑張る姿勢、他人のために身体を張る優しさ…、皆さんの純粋な真心(まごころ)のすべてが篠山鳳鳴高校の宝物です。これからも他人への誠実な思いやりと真心（忠恕(ちゅうじょ)・仁）を大切に生きて下さい。3年間ありがとう。

【１組担任　中村　伴彰】



人には、「マイルール」というものがあるようです。私には、「旅行に行くときには、行ったことが無い場所へノープランで行くこと」というマイルールがあります。無計画すぎて、電車・バスを長時間待ったり、目的地が休みだったりすることも多いですが、自分を責めることもなく、「まぁいいか」と笑い飛ばしています。それどころか、目的地に行った後、寄り道ができ、新たな発見ができることもあり、毎回私の満足度は高いように感じます。

人は「未知のもの」に不安を抱く生き物のようです。皆さんも、試験の結果が気になる、進学・就職等の環境の変化に緊張を感じる、など実感はあるはずです。かつての私もそうでした。しかし、「既知のもの」を見て、知識を再確認することに飽き飽きしている自分自身に気づいたとき、「未知のもの」も悪くないなと感じるようになりました。確かに、「未知のもの」と向き合っていると、正しい方向へ向かっているのか確信が持てないことも、行きついた先が思い通りではないこともありますが、それでも、新しいものと出会えた時の感動は忘れることはできません。これからの人生、未知との遭遇が多いことでしょう。どうか、恐れずに向き合ってみてください。生きていくうえでのヒントが得られるかもしれません。

最後に、71回生の皆さんという「未知のもの」と出会い、３年間関われたことは、試行錯誤の連続でしたが、本当に幸せな時間でした。ありがとう。

【１組副担任　細見　明子】

「己の足元を掘れ。そこに泉が湧く。」

私は私の足元を掘り進めて、その結果７１回生の皆さんと出会い、かけがえのない時間を過ごすことができました。今度は、皆さんが自らの泉を掘り当てる番です。

自らの人生において、たゆみなく足元を掘り続け、枯れることなくこんこんと湧く泉でもって、自分もそして周囲も潤すことのできる人間になって下さい。

【２組担任　石元　真理】

71 回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんとの出会いに心から感謝しています。

さて、皆さんは勉強が好きですか。ちなみに高校時代の私は、勉強が出来るわけでも、勉強が好きなわけでもありませんでした。ただ、私の大学時代の恩師は、「学ぶことの大切さ」を教えてくれました。恩師は比較文学を専門とし、退官後もイギリス人作家の短編集の翻訳に取り組んでおられました。あるとき、家に一冊の翻訳本が届き、「読後の感想とご意見を伺えますか。」という恩師の手紙が添えられていました。私はすぐに原書を読み、僭越ながら質問を投げかけると、「こういう気づきもあるんだね。」と目を輝かせ頷いておられまし

裏面につづく

た。どんな立場の人にも敬意を払い、常に学びの姿勢を持ち続ける姿、とりわけ恩師が楽しそうに語る姿が、真の学びの姿であるとそのとき感じました。

　それでは、皆さんが多くの「学び」を通して、より豊かな人生を歩んでいくことを心から願っています。

【２組副担任　佐藤　英朗】

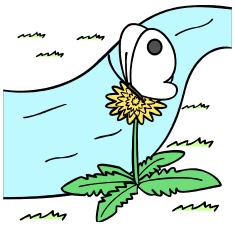
　卒業おめでとう。周囲をよく観察し、自分の思いだけでなく、一緒に行動する人の思いも大切にして生きていってください。

【３組担任　森本聡一郎】

　“大地を一歩一歩踏みつけて、手を振っていい気分で進まねばならぬ。急がずに、休まずに”

人生の拠り所が見つからぬ時も、手探りで前進しよう。目まぐるしい世の移ろいに進路を見失いそうになっても、顔を上げて一歩一歩進んでいこう。長い旅路ゆえ、時には歩みを止める時があってもいいし、何度か振り返ってみるのもいい。だが、結局のところ、目を向ける方向は前なのです。見つめる先は、これから歩んでいく未来なのです。それが若者の使命というものですが、我々から見れば、それは素晴らしい特権でもあるのです。

　過去の詮索は年寄りに任せて、キミ達は未来を詮索するのです。人生は短距離走ではありません。慌てて駆け出した者がより多くの名誉や財産を手にするわけではないのです。ですから、全力疾走するだけが能ではありません。反対に**しぶとく歩み続けた人には必ず何かのご褒美が待っているようになっています。**それが人生というものです。ただし、歩み続けた人にしかご褒美は用意されていませんので、念のため。



【３組副担任　荻野　敏久】

　「本当の学び」はこれから

　これからは自分の進路に応じて、それぞれの生活がはじまります。

　これからはじまる新生活に、ワクワク感を持っている人、なかには（漠然とした）不安感を抱いている人もいることでしょう。

　高校を卒業することで、これまでとは違う「大人社会」に所属し、人生100年といわれる時代を君たちは生きていくことになります。

　「本当の学び」が必要になるのはこれからです。また、「本当の学び」ができるのもこれからです。生まれ育ったふるさとを大切に思いながら、自分の人生を切り拓いていってください。

　卒業、おめでとう。

【４組担任　中西翔一朗】

71回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

「井の中の蛙、大海を知らず」という諺がありますが、環境の変わり目にいつも「よくできた諺だな」と感じます。それを初めて実感したのが高校を卒業し、大学に入学した時でした。小さいころから篠山で育ち、友達もほとんどが篠山在住。しかし、大学からは見たこともないような高さのビルがいっぱい建っているような土地へ。もちろん友達もできましたが、今まで出会ったことのないような友達がほとんどでした。そんな友達に出会う度「自分はまだまだだな」とよく思うことがありました。

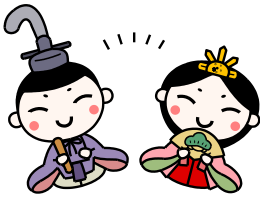
先ほどの諺には実は続きがあります。（といっても諸説あるのですが…）

「井の中の蛙、大海を知らず。されど井戸の深さを知る」

皆さんには18年間の掘り続けてきた、決して消えることのない深い井戸があります。もし行き詰まったら井戸に戻ってきてください。そして、新しい環境でも新しい井戸を掘り続けてください。僕も君たちに負けないよう、深い井戸を掘り続けます。

それではまた！3年間ありがとう！

【４組副担任　原　　渚】

ご卒業おめでとうございます。

高校生としての三年間は楽しかったですか？きっとたくさんの思い出もできたことでしょう。これからは今までとは違った社会へと旅立ちますね。その中で大切にして欲しいことがあります。それは「人との出会い」です。**良い出会いをし、それを大切にしていると、さらに新しい良い出会いを招いてくれます。**自分のために一生懸命になってくれる人に感謝し、大事にしてあげてください。皆さんが毎日を笑顔で過ごせることを願っています。